



フランス語プレゼンテーション大会の改善方法の検討 : 参加者アンケート結果の考察を通して

廣田, 大地

(Citation)

大學教育研究, 32:205-218

(Issue Date)

2024-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD01)

<https://doi.org/10.24546/0100488369>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100488369>



フランス語プレゼンテーション大会の改善方法の検討 ー参加者アンケート結果の考察を通してー

How to Improve French Presentation Competition: Through Survey Data Analysis

廣田 大地 (神戸大学 大学教育推進機構 准教授)

要旨

本学において執筆者が 2021 年度より実施しているフランス語プレゼンテーション大会の運営方法の改善をめぐり、本論では、2021 年度末開催の第 1 回大会、2022 年度末開催の第 2 回大会に参加した本学学部生ならびに兵庫県内の高校でフランス語を学習している高校生にアンケート回答を依頼し、その結果を比較検討する。第 1 回目のアンケート結果を得て、第 1 回目から第 2 回目にかけて行われた大きな変更点としては、学生補佐員による司会担当と、2 名のフランス語教育関係者による審査と講評・表彰式が加えられたことが挙げられるが、どちらの変更も、第 2 回目のアンケート結果を検討した結果、十分な成果をあげていることが確認できた。また他にも、対面形式とオンライン形式の選択については、どちらもそれぞれ希望があるため、次回開催時にはハイブリッド形式を採用することが適切であると判断された。今後も、地域に根差した毎年の恒例イベントとして定着させていくためにも、アンケート結果をもとに他にもさらなる改善点について本論において具体的な提案を記述している。

1. 本研究の目的

本学でのフランス語教育をより充実させるため、また本学からのフランス語圏への留学生者数を増加させるため、そしてフランス語学習を通じた高大連携や地域連携、さらには国際交流を加速させるため、本稿の執筆者は、2021 年度・2022 年度の 2 度にわたり、フランス語プレゼンテーション大会を開催してきた¹。本大会は、本学でフランス語を学習する学部生だけでなく、兵庫県内の高等学校でフランス語科目を履修している高校生も参加し、また大会を通じて、参加者がフランス語圏からの留学生とも交流できることを特色としている。今後、この大会を毎年の恒例イベントとして定着させ、本学が、兵庫県を中心とした地域と世界のフランス語圏とを結びつける中心的な役割を担えるようになるためにも、本プレゼンテーション大会の質の向上と、継続的な実施を可能にするための枠組みの整備が急務となっている。

¹ 第 1 回目は 2022 年 3 月 12 日、第 2 回目は 2023 年 3 月 18 日に Zoom を用いたオンライン形式で開催された。

第 1 回目の大会については、参加者に対しておこなったアンケートの結果を分析することで、すでに研究ノートが作成され、その時点での課題が明らかになっている（廣田・アモネ、2022：55-59）。本論においては、そこで明らかになった課題が第 2 回大会で改善されたかどうかを調査するとともに、さらなる改善点について検討する。

2. 研究の方法

本研究では、第 1 回目とほぼ同様の項目によるアンケートを、第 2 回大会への参加者に対して実施し、その集計結果を第 1 回目のアンケート結果と比較することで、改善が見られているのかを明らかにする。また、第 1 回目のアンケート結果から浮かび上がった問題点を解消するべく、第 2 回目の大会において実施方法を変更した点については、あらたなアンケート項目を設け、その取り組みが成功しているかどうかを明らかにしたい。

2.1 アンケート項目について

第 1 回・第 2 回大会での具体的なアンケート項目は、次の表 1 のとおりである。第 1 回目のアンケート結果と比較できるよう、第 2 回目のアンケートは第 1 回目の質問文と同じにしてあるが、「ネイティブ講師による事前レッスンについてお尋ねします。」など、質問事項がプレゼンテーション大会のどの側面に関するものなのかを補足する文言を追加している。第 1 回・第 2 回で対応するアンケート項目を左右に併記するが、対応する項目が無い場合には空白にしてある。アンケートの回答は、後述する「大会の開催日はちょうど良かったですか？」という項目を除き、すべて 5 段階評価で回答できるようになっている。

表 1 第 1 回・第 2 回大会でのアンケート項目

	第 1 回大会でのアンケート項目	第 2 回大会でのアンケート項目
ネイティブ講師による事前レッスンについて	Q1. 45 分間のレッスン時間はちょうど良かったですか？	ネイティブ講師による事前レッスンについてお尋ねします。45 分間のレッスン時間はちょうど良かったですか？
	Q2. 全 2 回のレッスン回数はちょうど良かったですか？	ネイティブ講師による事前レッスンについてお尋ねします。全 2 回のレッスン回数はちょうど良かったですか？
	Q3. 講師の教え方は良かったですか？	ネイティブ講師による事前レッスンについてお尋ねします。講師の教え方は良かったですか？
	Q4. 事前レッスンは役に立ちましたか？	ネイティブ講師による事前レッスンについてお尋ねします。事前レッスンは役に立ちましたか？

参加方法について	Q5. 三人一組でのチーム参加の形式は良かったですか？	参加方法についてお尋ねします。2 人～4 人一組でのチーム参加の形式は良かったですか？
	Q6. 発表テーマの選択形式（地域紹介または日仏比較）は良かったですか？	参加方法についてお尋ねします。発表テーマの選択形式（フランス地方旅行報告または兵庫県内旅行プラン紹介のどちらかを選ぶ）は良かったですか？
大会本番の進行について	Q7.1 チームの発表時間は 10 分間以内という目安はちょうど良かったですか？	大会本番についてお尋ねします。1 チームの発表時間は 10 分間以内という目安はちょうど良かったですか？
	Q8. 大会全体の開催時間（3 時間）はちょうど良かったですか？	大会本番についてお尋ねします。当日の大会全体の開催時間（2 時間半）はちょうど良かったですか？
	Q9. 大会の開始時間（15 時半開始）はちょうど良かったですか？	大会本番についてお尋ねします。大会の開始時間（15 時開始）はちょうど良かったですか？
	Q10. 別の学校の参加者とのディスカッションの時間はちょうど良かったですか？	大会本番についてお尋ねします。フランス語ネイティブ学生との意見交換の時間（15 分×2 回）はちょうど良かったですか？
		大会本番についてお尋ねします。大会の開催日はちょうど良かったですか？
		大会本番についてお尋ねします。大会の進め方や司会進行はどうでしたか？
大会本番の審査について	Q11. 次回以降は、順位発表と表彰式があったほうが良いですか？	
		大会本番についてお尋ねします。最優秀賞、優秀賞、審査員賞のような審査結果発表は今後もあったほうが良いですか？
		大会本番についてお尋ねします。評価基準（主題・構成力・表現・発音で各 5 点ずつ）は良かったですか？
		大会本番についてお尋ねします。審査員による各チームの発表についてのコメントは今後もあったほうが良いですか？
		大会本番についてお尋ねします。審査員による講評の時間はちょうど良かったですか？

その他	Q12. 次回以降は、対面形式とオンライン形式のどちらが良いですか？	大会本番についてお尋ねします。次回以降は、可能であれば参加者が同じ会場に集合して対面形式で開催する方が良いですか？それとも今回のようなオンライン形式で開催する方が良いですか？
	Q13. 大会に参加したことで、フランス語学習のモチベーションは高まりましたか？	大会本番についてお尋ねします。大会に参加したことで、フランス語学習のモチベーションは高まりましたか？

2.2 アンケートの回答者数について

第1回目の大会後に実施したアンケートでは参加者18名の内16名から回答を得ることができ、その内15名が研究へのアンケート結果の利用に承諾している。第2回目の大会に関しては、参加者18名に対してアンケート協力を依頼したところ、14名から回答ならびに研究への利用承諾を得ることができ、また参加した高校生にフランス語を教えている高校教員1名からもアンケート回答があったため、あわせて15名として回答を分析していくこととする。偶然ではあるが、第1回・第2回大会の有効なアンケート回答者数が15名と一致しているため、以降、その結果を上下に並べて記載することで、第1回目から第2回目にかけての変化を分析していくこととしたい。

3. アンケート結果と分析

3.1 ネイティブ講師による事前レッスンについて

まず、本プレゼンテーション大会の特色の一つである、大会での発表の準備期間に参加者が受講することができるオンラインでのフランス語指導レッスンに関してである。全参加者は各グループごとに、大会本番までにフランス語ネイティブ教員による45分間のオンラインレッスンを2回受けることができる。事前レッスンの時間と回数についてのアンケート結果は次の表2・表3のとおりである。

表2 「Q1. 45分間のレッスン時間はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短かった	ちょうど良かった	すこし長かった	長すぎた
第1回	0	4	11	0	0
第2回	1	5	9	0	0

表3 「Q2. 全2回のレッスン回数はちょうど良かったですか？」の回答結果

	少なすぎた	少し少なかった	ちょうど良かった	少し多かった	多すぎた
第1回	0	7	8	0	0
第2回	1	7	7	0	0

Q1・Q2の事前レッスンの時間・回数についての質問では、第1回目でも2回目でも、「ちょうど良かった」あるいは「すこし短かった／少し少なかった」という回答がほとんどであった。これは、レッスンの内容が充実しており、参加者が同じ講師によるレッスンをさらに受けたいという意欲の表れでもありと考えられる。しかしながら、参加者と講師との予定を考慮して、全参加グループのレッスン時間のスケジュールを組む作業は非常に煩雑なものであるため、本プレゼンテーション大会の運営に携わるスタッフが増える目途が立った際に、あらためて検討したい。

続いて、事前レッスンの内容と有用性に関するアンケート結果は次の表4・表5のとおりである。

表4 「Q3. 講師の教え方は良かったですか？」の回答結果

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらとも言えない	良かった	とても良かった
第1回	0	0	0	5	10
第2回	1	0	2	4	8

表5 「Q4. 事前レッスンは役に立ちましたか？」の回答結果

	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	どちらとも言えない	役に立った	とても役に立った
第1回	0	0	0	6	9
第2回	1	1	0	7	6

Q3・Q4の事前レッスンの内容と有用性については、第1回目・第2回目ともに、きわめて高い評価の回答が得られた。とはいえ、第1回目と比較すると第2回目においては否定的な回答が若干出ている。事前レッスンが「役に立たなかった」と回答した参加者のコメント記述を参照すると「少しスピードが速く先生の教えてくれた事を書ききることができず、よく分からないまま授業が進んでいった感じがしていました。」と書かれている。次回以降、事前レッスンをフランス語ネイティブ教員に依頼する際、ゆっく

り話すように心がけていただくようお願いしておく必要があるだろう。

とはいえ、参加者からの事前レッスンに対する評価は高く、担当講師に対して以下のようなコメントが寄せられている。

表 6 事前レッスン担当講師に寄せられた参加者からのメッセージ

- ・〇〇先生に教えていただいたことを参考にできたところもありましたが、時間が少なかった事もあったりもう少し見ていただきたかったなと思うところもありました。また、〇〇先生にも本番での発表を見ていただきたかったです。
- ・優しかったです。
- ・先生のレッスンを受けて、初めてフランス語でのプレゼンテーションに使う言葉や形式を知りました。レッスンありがとうございました。
- ・ギリギリまで色々なアドバイスありがとうございました。先生との時間とても楽しくいろいろ学べて良かったです。ありがとうございました。
- ・発音について分からないところ、間違っているところを細かく指摘していただけてとてもためになりました。文法面でも、こうした方が分かりやすい、などの改善案も出していただけて良かったです。
- ・とても丁寧に細かくご指導いただいて、よい良い発表にすることができました。本当にありがとうございました。
- ・朝早くからありがとうございました。調べるだけじゃわからないこともあるので、色々コメントをいただいて、とっても助かりました。優しいし、褒めてくれるからやる気みなぎります。
- ・お忙しい中朝早くからレッスンをして下さり、ありがとうございました。少人数で見て頂ける機会はあまりないので、とても有意義な時間になりました。細かく、ひとつひとつの表現を改善できるよう指摘して下さったのが特に有難かったです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・大学の授業では学びきれなかったフランス語の表現方法を学ぶことができたので非常に有意義な時間でした。ありがとうございます。
- ・私達が見えない場所まで修正して下さい沢山の発見が出来ました。資料を見て間違っている所を細かく教えて下さり私自身とても勉強になりました。本当にありがとうございます。

3.2 大会の参加方法に関して

続いて、本大会への参加方法について検討していきたい。第1回目の大会では、3名1チームでの参加を申込みの条件としていたが、2名または4名での参加を認めてほしいという要望があった。そのため、第2回目の大会では、2～4名による1チームでの応募を各高校や大学生に認めることに変更した。

表7 「Q5. チーム参加の形式は良かったですか？」の回答結果

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらとも言えない	良かった	とても良かった
第1回(3名)	2	0	0	6	7
第2回(2～4名)	0	1	0	6	8

僅かな変化ではあるが、第1回目と比較して、第2回目のほうが参加者の満足度が高まっていることが確認できる。また、第2回目に「あまり良くなかった」と回答した参加者は自由記述コメントにおいて「グループメンバーの都合などによりあまり計画通りに進めることはできませんでした」と回答していることから、必ずしも「2～4名で1チーム」という形態に不満を感じているわけではないことが推測できる。

また、第1回の大会では、各チームでリーダーを選出し、そのリーダーのみが大会運営側とのメールのやり取りをおこなうことがストレスになっていたとのコメントがあり、第2回からは高校生の場合、各校のフランス語教員が連絡係を務めることを条件とした。その理由もあって、高校生の参加者からの不満が減ったように思われる。

続いて、発表テーマの選択形式については、次のような回答を得た。

表8 「Q6. 発表テーマの選択形式は良かったですか？」の回答結果

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらとも言えない	良かった	とても良かった
第1回	0	1	2	7	5
第2回	0	0	1	8	6

第1回目は「地域紹介」または「日仏比較」のどちらかを、第2回目は、「フランス地方旅行報告」または「兵庫県内旅行プラン紹介」のどちらかを選択するという形式を採ったが、どちらの年もおおよそ好評を得ることができている。

しかしながら、後述する審査員による審査と表彰を第2回から盛り込んだため、テーマが選択制の場合、テーマの違いによって審査結果に差が出てしまう恐れが生じてしまった。

そのため、選択形式には参加者の自由度を高めるという長所はあるものの、次回以降はテーマを一つに絞ることにする予定である。

3.3 大会本番の進行について

ここからは、大会本番のスケジュール進行を中心に確認していきたい。まず、第 1 回・第 2 回の大会当日のスケジュールは下記のとおりであり、実際、本番時にもおおむね予定通りに進行することができた。

表 9 第 1 回・第 2 回の大会当日スケジュール

第 1 回大会		第 2 回大会	
15:30	開会式	15:00	開会のあいさつ、参加者の紹介、進行についての説明
15:40	テーマ 1 の発表 (15 分×4 チーム)	15:20	各チームの発表 (10 分×5 チーム)
16:40	3 グループに分かれてフリーディスカッション	16:30	フランス語ネイティブ特別ゲストとの交流
17:00	テーマ 2 の発表 (15 分×2 チーム)	17:00	審査結果の発表、審査員からの講評
17:30	3 グループに分かれてフリーディスカッション	17:30	閉会
18:00	評価点数の集計結果発表、閉会式		

それぞれの配分時間や開始時間について、表 10・表 11・表 12 の回答を得ている。

表 10 「Q7. 1 チームの発表時間は 10 分間以内という目安はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短かった	ちょうど良かった	すこし長かった	長すぎた
第 1 回	0	1	12	2	0
第 2 回	0	1	14	0	0

10 分間という各チームの発表時間については、第 1 回・第 2 回ともにこれで「ちょうど良かった」との回答が大半であり、次回以降も変更する必要がないことが確認できた。

表 11 「Q8. 大会全体の開催時間はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短 かった	ちょうど 良かった	すこし長 かった	長すぎた
第 1 回 (3 時間)	0	0	8	5	2
第 2 回 (2 時間半)	0	0	11	4	0

表 12 「Q9. 大会の開始時間はちょうど良かったですか？」の回答結果

	早すぎた	すこし早 かった	ちょうど 良かった	すこし遅 かった	遅すぎた
第 1 回 (15 時半開始)	0	0	8	7	0
第 2 回 (15 時開始)	0	0	11	4	0

第 1 回目の大会では、15 時半に開始、18 時半に閉会であった。オンラインでの参加であったとはいえ、高校生の参加者たちは、各校のフランス語教員にもサポートしていただき、各校の教室から参加していた。そのため、教室の使用時間や学校の門限に差し障りがあることが大会実施後のコメントなどで判明し、第 2 回目の大会では、15 時開始で 17 時半終了に変更とした。アンケート結果をみると、第 1 回目よりは第 2 回目の時間帯のほうが参加者にとって都合が良いことが窺える。

第 1 回・第 2 回において、比較的午後の遅めの時間帯を開催時間に選んでいたのは、コロナ禍の影響でフランス語圏から本学への留学生がほとんどおらず、主にフランスにいる日本語学習者であるフランス語母語話者学生とオンライン上で交流する機会を持つ必要があったためである。日本とフランスの時差 8 時間を考慮すると、フランス時間で午前 7 時より早く開催することが困難であった。しかしながら、現在ではコロナ禍もほぼ終息し、フランス語圏から本学に数多くの留学生が再びやって来るようになっている。そのため、すべて対面で交流をおこなうという前提であれば、開催時間帯を午後 1 時から午後 4 時くらいまでに設定することが容易になるだろう。

また、第 1 回・第 2 回ともに土曜日に大会を実施しているが、参加した高校の一つからは、学校の規則などの都合で、土曜日よりも平日開催のほうが有難いという要望をいただいたため、第 2 回大会時に、下記のような項目をアンケートに加えている。

表 13 「大会の開催日はちょうど良かったですか？」の回答結果

	ちょうど良かった (土曜日が良い)	日曜日が良い	平日が良い
第 2 回	12	1	2

大多数の参加者にとっては土曜日の開催の方が都合が良いようではあるが、このまま土曜日開催を継続していると、要望のあった高校の生徒が今後本大会に参加できなくなる心配がある。地域に寄り添った活動として今後も本大会を持続させていくうえでも、できる限り多くの高校から参加してもらえるように日程調整していく必要があるだろう。そのため、次回は試験的に平日開催を予定している。3月中旬であれば、高校生も大学生も通常の授業が無い場合、おそらくは参加に問題はないと考えられる。

続いて、本大会における参加者同士の交流の時間に関してである。本大会は、単なるプレゼンテーションの発表の場として位置付けられているだけでなく、フランス語を学習している大学生と高校生の間や、フランス語を学習している日本語母語話者の大学生・高校生と日本語を学習しているフランス語母語話者の学生との間での交流の場となることを目標としている。そのため、大会の本番時には、第1回目から交流のための時間が設けられている。第1回目では、参加者を Zoom のブレイクアウトルーム機能で3つのグループに分け、それぞれで自由に会話をしてもらった。その活動に関するアンケート結果は次のとおりである。

表 14 「Q10. 別の学校の参加者とのディスカッションの時間はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短かった	ちょうど良かった	すこし長かった	長すぎた
第1回	0	0	6	7	2

特に事前の準備無しで20分間のフリーディスカッションを、メンバーを変えて2回実施するというものは、参加者にとっても会話を盛り上げにくく、話が弾まないまま無駄に時間が流れてしまったようであった。そのため、第2回目の大会時には、20分から15分に時間を変更し、また、フリーディスカッションと言うよりも、フランス語ネイティブの学生に質問をするための時間として位置付け直した。その活動についてのアンケート結果は次のとおりである。

表 15 「フランス語ネイティブ学生との意見交換の時間（15分×2回）はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短かった	ちょうど良かった	すこし長かった	長すぎた
第2回	0	2	8	5	0

第1回目と比較すると、かなりの改善が見られるものの、まだ「すこし長かった」と感じる参加者が多いため、さらなる工夫が必要だろう。

また、このようなフリーディスカッションへの参加者の誘導や、司会進行については、第1回目の大会においては、実施責任者である本論の執筆者がすべてをひとりで担当していたため、司会進行などに至らぬ点が見られ、その点について何人かの参加者からコメントで指摘があった。そのため、第2回大会においては、本学の学部生でフランス語の成績も優秀な学生を補佐員として雇用し、司会進行を担当してもらった。その結果、筆者は負担が減った分、大会全体の流れに注意を払うことができるようになり、また、学生による司会そのものも好評だったようである。第2回大会での司会進行については次のようなアンケート回答を得ている。

表 16 「Q. 大会の進め方や司会進行はどうでしたか？」の回答結果

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらとも言えない	良かった	とても良かった
第2回	0	1	2	7	5

大会を充実させるうえでも、ひとりですべての作業をこなすことは困難であり、今後も学生補佐員を中心とした人材の活用により、作業内容を分担することが重要であるだろう。

3.4 審査について

ここでは、大会における審査に関して確認していきたい。第1回目の大会は、そもそも試験的な実施であったこともあり、参加者同士で他のチームの点数を評価し合うという活動を試みたものの、順位発表や表彰は行わなかった。この点に関して、第1回目の大会後には次のようなアンケート結果を得ている。

表 17 「Q11. 次回以降は、順位発表と表彰式があったほうが良いですか？」の回答結果

	無くて良い	どちらかと言うと無くて良い	どちらとも言えない	どちらかと言うとあった方が良い	あった方が良い
第1回	4	3	2	2	4

「あった方が良い」という意見と「無くて良い」という意見がほぼ均衡しているが、高校生の参加者に限定して言えば、「あった方が良い」という意見がやや多く、また各高校のフランス語の先生方からも、生徒たちの学習モチベーションを維持するために優秀チームへの表彰をおこなって欲しいとの提案が寄せられた。

そのため、第 2 回大会においては、学内外のフランス語教育関係者 2 名に審査員を依頼し、審査員による評価と表彰式をおこなうこととした。その点に関連したアンケート項目への回答結果は次の表 18・表 19・表 20・表 21 のとおりである。

表 18 「Q. 最優秀賞、優秀賞、審査員賞のような審査結果発表は今後もあったほうが良いですか？」の回答結果

	無くて良い	どちらかと言うと無くて良い	どちらとも言えない	どちらかと言うとあった方が良い	あった方が良い
第 2 回	0	0	2	8	5

表 19 「Q. 評価基準（主題・構成力・表現・発音で各 5 点ずつ）は良かったですか？」の回答結果

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらとも言えない	良かった	とても良かった
第 2 回	0	0	2	8	5

表 20 「Q. 審査員による各チームの発表についてのコメントは今後もあったほうが良いですか？」の回答結果

	無くて良い	どちらかと言うと無くて良い	どちらとも言えない	どちらかと言うとあった方が良い	あった方が良い
第 2 回	0	1	1	1	12

表 21 「Q. 審査員による講評の時間はちょうど良かったですか？」の回答結果

	短すぎた	すこし短かった	ちょうど良かった	すこし長かった	長すぎた
第 2 回	0	0	11	1	0

おそらくは、審査員を引き受けてくださった二人の先生方のご尽力によるものが大きいと思われるが、審査員による評価と講評は参加者からの評価が高く、少なくとも次回は、第 2 回目と同様の形式で継続していくことが望ましいように思われる。

3.5 そのほかの項目に関して

第1回目・第2回目の大会が、まさにコロナ禍ただなかでの開催であったのに対して、第3回目の開催を予定している2024年3月においては、もはや感染対策のための特別処置は不要となっており、コロナ禍以前と同様の対面形式での活動が行えるようになってきている。そのため、次回以降の大会の開催形式をめぐって、これまでのアンケート結果を確認しておきたい。

表22 「Q12. 次回以降は、対面形式とオンライン形式のどちらが良いですか？」の回答結果

	対面形式が良い	どちらかと言うと対面形式が良い	どちらとも言えない	どちらかと言うとオンラインが良い	オンラインが良い
第1回	4	2	3	4	2
第2回	7	3	1	3	1

第1回目から既に対面形式での希望が強かったが、第2回目のアンケートではさらにその傾向が強まっている。しかしながら、オンラインでの開催を強く希望する参加者もいることにも注意する必要があるだろう。高校生の場合、大学のキャンパスまで来てもらうためには、教員が学校に課外活動の申請をすることが必要であるだろうし、また大学生の場合、3月半ばは実家に帰省している者が少なくない。そのような事情も推測されるため、多くの参加者を得るためには、オンラインでの参加も選択肢として残しておくべきであるように思われる。そのため、第3回目の開催では、オンラインと対面形式のどちらも可能とするハイブリッド形式での開催を試験的におこなってみたい。

最後に、本大会に参加したことで、参加者のフランス語学習に対するモチベーションはどのように変化したのだろうか。アンケート結果は次のとおりである。

表23 「Q13. 大会に参加したことで、フランス語学習のモチベーションは高まりましたか？」の回答結果

	高まらなかった	あまり高まらなかった	どちらとも言えない	高まった	とても高まった
第1回	0	0	2	4	9
第2回	0	1	1	8	5

残念ながら、第 1 回目と比較すると、第 2 回目のほうが「とても高まった」の回答者数が少なくなってしまうている。考えられる可能性としては、第 1 回目の大会が実施された 2022 年 3 月時点では、コロナ禍の影響で大学生・高校生ともに学内外での活動が大幅に制限されており、フランス語学習と関連付けながら楽しむことができるようなイベントがほとんどなかったことが思い出される。そのような中、本大会のようなイベントに参加することは、当時の参加者にとって大いに励みになったのではないだろうか。とはいえ、第 2 回の回答に「あまり高まらなかった」という回答もあったことを重く受け止め、本大会のさらなる充実化に向けて、今回のアンケート結果をもとに改善をおこなっていききたい。

4. 結論

本大会は、第 2 回目の開催を終え、少しずつではあるが内容も充実してきているように感じられる。そのことは本稿でおこなった第 1 回目と第 2 回目のアンケート結果の比較からも客観的に明らかにすることができただろう。本大会は、本学の学部生（とりわけ学部 1 回生）と兵庫県の高等学校でフランス語を学習している高校生という、ごく限られた層だけを対象とした地域限定のイベントである。そのため、毎回の大会後に実施するアンケート調査の結果は、本大会の改善のために非常に重要なものであると考えられる。とりわけ、参加する高等学校それぞれの規則や、フランス語教育の状況を把握し、それに柔軟に対応することが、本大会を地域に根付いた活動として継続していくうえで、最も重要なものであると考えている。

また、第 2 回大会から審査員 2 名と司会担当の学生補佐員が大会の進行に加わったことも、今後の大会運営の方向性を決めるうえで重要な転機となっているように思われる。大会運営に携わる人員が増えることで、大会の質を高めることができると期待できるが、同時に、数多くの人々が協力して一つのイベントを実施するためには、本大会の主催者である執筆者自身のオーガナイザーとしての役割がよりいっそう重要となってきたことを忘れないようにしたい。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP23K00653 の助成を受けたものです。

参考文献

廣田大地、シャルロット・アモネ (2022) 「オンライン形式によるフランス語プレゼンテーション大会の開催方法をめぐって」 *Rencontres Pédagogiques du Kansai* (関西フランス語教育研究会) 第 36 号、pp.55-59.